

知覚過敏

1. 知覚過敏（象牙質知覚過敏症）とは

むし歯の無さそうな歯の表面に冷氣や冷水、あるいは歯ブラシなどの刺激が加わった時に「ヒヤッ」とするような瞬間的な痛みを感じることがあります。これは、象牙質知覚過敏症の可能性が高いと考えられる症状です。この痛みは、外部からの刺激がいろいろな原因で露出した象牙質に加わり、歯の内部の神経（歯髄）に伝わるために起こります。

2. 知覚過敏になる原因は？

健全な歯の表面は硬いエナメル質で覆われ、刺激を防いでくれますので知覚過敏は起こりません。しかし、いろいろな原因により象牙質が露出することがあります。

1 不適切な歯みがき

〔力の入れすぎ、硬すぎる歯ブラシ、長すぎる歯みがき時間〕
〔研磨剤の多く入った歯みがき剤など〕

2 歯周病による歯肉退縮

（歯肉が下がり、エナメル質に覆われていない歯根が露出する）

3 歯ぎしりや歯を食いしばる癖

（過剰な力がかかり、エナメル質が割れたり、はがれたりする）

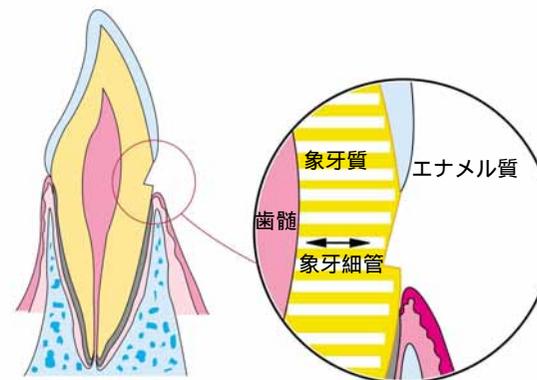


不適切な歯みがきによる象牙質の露出



歯根の露出

象牙質も硬い組織ですが、細い管（象牙細管）が集まった構造をしており、外からの刺激がこの管を通じて歯髄に伝わると考えられています。



象牙質の欠損と露出した象牙細管

3. 知覚過敏の症状が出たら

知覚過敏の症状は一時的なことも多く、薬や修復による治療が不要な場合もありますが、まず歯科医院で症状の原因を調べてもらい、必要なら治療や正しい歯みがきの指導を受けることが大切です。

歯科医院でできること

代表的なものとして以下のような処置があります。

- 1 象牙細管の封鎖（知覚過敏用の薬を塗る）
- 2 欠損部の修復（白い樹脂等をつめる）
- 3 歯髄除去（歯の神経の治療を行う）

他には歯科用レーザーや高周波を用いる方法もあります。

家庭でできること

適切な歯みがきをすることが大切です。さらに知覚過敏用の歯みがき剤を使うと、象牙質の表面にフッ素などの薬剤が作用し、知覚過敏に有効であるとされています。しかし、効き目が現れるまでには時間がかかることもあります。